

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	奈良県	事業実施主体	上北山村	地域再生計画名	森林と共生した豊かな村づくり計画
計画期間	令和2年度～令和6年度	評価責任者	上北山村 建設課 課長 岩本達幸		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度			指標総数	達成数		
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	木材搬出量の増加	600m3	R1	700m3	R4	1,425m3	800m3	R6	○	4	3	中間目標を大きく上回っている。
	指標2	林業就業者数の維持	9名	R1	9名	R4	16名	9名	R6	○	4	3	中間目標を大きく上回っている。
	指標3	道の駅利用客数の増加	4万8千人	R1	5万人	R4	5万6千人	5万3千人	R6	○	△		中間目標を上回っている。
	指標4	観光入込客数の増加	172千人	R1	173千人	R4	158千人	175千人	R6	△			新型コロナウイルス感染症及び和佐又山ヒュッテの閉館等により中間目標を下回っているものの、令和5年度からは和佐又山がリニューアルオープン予定となっている。
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度（R4）	最終実績見込み								
特別措置を適用して行う事業	林道整備事業		1.0km	0.51km	1.0km	路線ごとには整備延長の増減があるが全体整備量は概ね計画通り完了する見込みである。							
	村道整備事業		0.41km	0.29km	0.41km	路線ごとには整備延長の増減があるが全体整備量は概ね計画通り完了する見込みである。							
その他の事業	ヒルクライム大台ヶ原事業		大台ヶ原の雄大な大自然の中を駆け抜ける全国的な自転車競技			令和2年から令和4年においては新型コロナウイルス感染症の影響により大会が中止となっていたが、それまでは毎年選手及び関係者約1200人、地元及び村外ボランティア500人が参加し、村を訪れる方の誘致に寄与している。							
	大台ヶ原マラソン事業		大台ヶ原の雄大な大自然の中を駆け抜けるランニングイベント			令和2年から令和4年においては新型コロナウイルス感染症の影響により大会が中止となっていたが、それまでは毎年選手及び関係者約500人、地元及び村外ボランティア200人が参加し、村を訪れる方の誘致に寄与している。							
	心の道ウォーク事業		世界遺産に登録された墓場と参詣道「大峯奥駈道」を探索し、自然に親しむとともに、修験の歴史を感じてもらふ登山イベントの開催			平成16年から実施しており参加人員は延べ3000人に及ぶ。世界遺産でもある大峯奥駈道や大台ヶ原等を探索し自然に親しむことを発信し観光客の増加を図る。							
	連携コミュニティバス事業		路線バスの廃止に伴い、住民の通院及び観光客の交通手段の確保			路線バスの廃止に伴い住民の通院及び観光客の交通手段を確保するため、大淀町・吉野町・川上村・上北山村・下北山村の2町3村で連携コミュニティバス「ゆうゆうバス」を運行し、そのバスの運行時刻に併せて村内各地を回る村内コミュニティバスも運行し、村民の健康や観光客の増加を図っている。							
計画外で独自に実施した事業	大台ヶ原の冬期利用		冬季は通行止めとなり普段入ることのできない大台ヶ原での冬季ツアーイベント			大台ヶ原ドライブウェイは冬季通行止めとなり冬季は大台ヶ原を利用することが出来なくなっている。そこで限定的ではあるが年1～5回程度ツアーを実施し新たな魅力を発信し、観光客の増加を図っている。							
③評価方法	森林と共生した豊かな森づくり計画評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況について評価、検討を行った。												
④中間評価の公表方法	上北山村ホームページで公表。												
⑤計画全体の総合評価	①木材搬出については順調に増加している。 ②林業就業者数の維持については7名の増となっている。 ③道の駅の利用客数は順調に増加している。 ④観光入込客数については和佐又山ヒュッテ（キャンプ場）の閉館に伴い減少しているが、令和5年に和佐又山キャンプ場がリニューアルオープンをする予定をしているので今後入込客数が増加する予定。												
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況						有りの場合その具体的内容						
	地域再生計画の見直し（有・無）												
	令和〇年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 千円												
⑦今後の方針等に対する対応	引き続き林道及び村道の改良を進め、安全な交通を確保することの他、支援措置によらない独自の取り組みについて、より一層PRを行うことで観光客の誘致に努めたい。												